

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200546		
法人名	医療法人社団明寿会		
事業所名	あっとほ～む米島		
所在地	高岡市米島329-3		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自分のペースで生活できるよう個別に支援することで、利用者が安心して生活している。 ・利用者の言動を否定せず受け止め、落ち着いて生活できるよう支援している。 ・職員各自がリスクや感染防止を意識し、業務に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近隣にスーパーやドラッグストアが立ち並び通りに立地しているが、室内は静かで明るく、快適な温度が保たれていて、居心地の良い空間となっている。職員は毎食(昼食)のデザートや毎月の行事食を利用者と共に手作りするなど、温かで家庭的な雰囲気を大切にしながら実践に繋げている。法人理念である「常に利用者の立場に立ったケアの提供に努め、その人らしく安心して生活できるよう支援します」を根底において、事業所で話し合い、自分たちの言葉で表現しケアに取り組んでいる。入所時の情報収集を基に、利用者の日々の状態や変化に職員が「気づき」をもつことで、極め細やかなサービスを提供している。日誌をはじめとした記録はすべて電子化を基本としており、職員間は、社内メールにより正確でスピーディな情報の共有に繋がっている。また、法人内にも繋がっていることで、職員が意見や提案を言いやすく、運営に反映・改善されやすい環境となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に年度初めに職員と話し合い、年間目標を立て、法人理念と年間目標を掲げ実践に努めている。29年度の目標は「きづくときずく(気付くと築く)」である。	法人理念を基にグループホームケア理念を職員で話し合い、自分達の言葉で表現し、独自に掲げている。事務所・玄関・フロアに掲示され、職員が常に意識できる環境である。日々の様子や記録が施設内のパソコンからでも閲覧でき、ミーティングや社内メールにて職員全員が共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々から、地域行事や民謡会等の催しへの誘いがあり、参加させて頂いている。草むしりにも参加し、地域交流も図っている。	地区自治会長、老人クラブ会長との繋がりから、地域の行事の催しへの誘いがあり、参加している。ボランティアの訪問で交流を図ったり、事業所からも回覧板を通して、夏祭りへのお誘い等を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で質問や意見が出た場合は、適宜利用者の立場に立った見解も伝え、認知症の理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し自治会長、老人クラブ会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加している。事業所の活動内容を写真で紹介し、事故報告や意見交換等を行っている。	隔月に開催されている会議では、事業所から事例紹介やボランティア活動内容を報告し、リスクに対する意見交換等、活動的に活かされている。話し合われた議事録は職員や家族にも報告され共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の報告の他に、分からないことがあれば市町村に確認している。	運営推進会議には、地域包括支援センターからも出席してもらい、いつでも相談できる関係を築いている。	市との連携強化のためにも出席を要請し、会議の報告時に相談したりして情報を得るよう望まれる。また地域包括にも事業所の実情や取り組みを発信することで、市町村との連携を強めることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束をしない方針のもと、利用者の支援に取り組んでいる。勉強会を開催し学びを深め、拘束しない対応を検討し実践に活かしている。	マニュアルに沿った身体拘束をしないケアについて、職員で勉強会を開催している。理念に沿って利用者の尊厳を守りながら、安心して暮らせるよう、職員も日常のケアにおいて正しく理解し連携して、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学ぶ機会を設けている。日頃のケアの中で、虐待が見過ごされることのないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を設けている。今後外部研修に参加するなどして、学ぶ機会をもつよう努める。成年後見制度については、現在は制度を利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に、口頭や文章にて説明や報告を行い、理解や納得して頂けるよう努めている。また、不明な点等あれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は必ず連絡事項や日頃の本人の様子、受診結果等について伝達すると共に、家族の意見を聞き把握に努めている。また、ケアに対する意見をミーティングで話し合い、個々の利用者、家族の要望を職員間で共有し、運営に反映させている。	日頃の利用者の様子や、家族からの意見・要望等はパソコンに記録され、法人全体として活用している。家族の面会時は職員の誰もが対応、伝達できるよう連携がとれている。社内メールを利用しながら、月1回のミーティングやカンファレンスで共有し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を日頃から聞く機会を設け、反映させている。メールや口頭確認、パソコンのメモ機能などを活用している。	管理者は、職員の意見や提案を日頃から傾聴するようにしている。職員、管理者、代表者は社内メールを活用することで、情報を共有しながら改善へと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不必要な時間外労働を避けれるよう工夫し、業務分担などを行っている。またキャリアパス要件に従い処遇改善を行っている。職場環境は、カンファレンス等で意見を出し合い、上司と相談し改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加や外部研修への参加への勤務配慮、又研修費の補助を行っている。月に1回勉強会を開催し、知識を深める機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修等の外部研修に参加し、他事業者と交流を図り情報交換を行い、知識の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人や家族に話を聞き、生活歴や現状、希望や要望、不安に感じていること等に耳を傾け、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や本人と面接し、要望や思いを確認している。気付いたことはこまめに連絡を取り、その都度ケアの方向性を相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族が困っていること、施設に対し望むことを踏まえた暫定プランを作成し、入居後アセスメントを行い、1ヶ月後に評価した後本プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできること、できないこと的能力を見極め、活動や施設での役割を提案している。利用者一人ひとりが必要な存在として、利用者自身が感じられる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や散髪等はできるだけ家族に依頼している。また、本人の意向を伝え、外出や外泊、面会の機会が持てるよう連絡や説明を行い、協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に友人が訪ねて来られたり、馴染みの美容院に行くなど外出・外泊を、家族と共に支援している。	家族や友人・知人の面会時には、積極的にコミュニケーションを図り、来所しやすい雰囲気作りに努めている。正月には外泊する方もおられ、家族との繋がりを大切にしている。携帯電話を持つ方には家族と話し合い、友達との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、座席を配置している。日々の共同作業やレクリエーションの集団活動も施設の活動として取り入れ、利用者同士が交流できる場面作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談、要望があれば応じている。移動先へ移動された方を訪ねたりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前より家族、本人より生活歴、趣味、特技、したい事等を聞き、利用者本人の全体像の把握に努めている。又、日常生活の会話から、希望や要望の把握に努め、日誌やメール等で職員間の情報を共有している。	一人ひとりの思いや意向を、センター方式に落とし込むことで、利用者の全体像が把握されている。入居前のことや入居後の情報が、パソコンに打ち込んであり、きちんと整理され、職員全員が日誌メールで情報が共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人家族とのオリエンテーション時に、情報収集を行い、メールやパソコン入力等で職員間で情報共有している。また、聴取した内容をケアに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方を把握し、好みや力量に応じた活動提供に努めている。日頃から利用者の状態把握に気を配り、職員間で申し送ったり、日誌に挙げる等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題については職員同士意見を出し合っている。介護計画の取り組みについては家族にも伝え、要望があれば伺い、プラン作成時に反映させている。	職員は、利用者本人・家族の主訴を優先した介護計画の作成に努めている。日々の変化に伴い、月1回のカンファレンスや、3ヶ月ごとのモニタリングにより、介護内容を見直して介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを日々の記録、社内メールに記録し、職員間で情報を共有できるようになっている。ケアプランの見直しや実践に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から相談があった際に、施設で可能なサービスを最大限に活用し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近くのスーパーへの買物等、楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の診察を受けている。異変があった場合は、その都度相談し、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医を選択できることを説明し、希望する医療機関で受診して頂いている。法人内の医療機関とは社内メールで情報共有されている。他の医療機関受診の利用者には「つながりノート」にて情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤Nsが不在な為、かかりつけ医のNsに報告し、相談する体制作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、ケアマネージャーが面会に行き、病院関係者と情報交換し、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は医療行為の高い方や看取りの対応を行っていない。本人の状態に関しては、かかりつけ医、家族と現状について話し合い、今後について相談し対応を行っている。	契約時、事業所では看取りの対応は行っていないことを説明している。共同生活であること、本人の環境を考え、重度化した場合の相談・対応は行っている。法人内に医療法人社団もあり、家族と現状について話し合いながら、安心して頂ける次の段階へと繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク対策、急変時の対応等に関する事は、定期的に勉強会を行い身につけている。また、法人内で実施している救命救急の研修参加を義務付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に昼夜想定で2回実施している。そのうち1回は消防署の立会いの訓練を実施。水害や地震災害の訓練は実施していない。	火災訓練は年2回、昼夜想定で行い、1回は消防署立ち会いのもと、避難訓練を実施している。	火災訓練の他に、水害や地震災害の対策を、地域(運営推進会議等)の方と共に検討しながら、協力を得られるよう構築に向けた取り組みを期待したい。避難場所において、利用者が安心して避難できる方法などの工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本の職員心得に人格の尊重、プライバシー保護に関する項目もあり、指示的な声かけではなく、お願いするかたちを心がけ、利用者一人ひとりの思いや人格を否定しないような対応に努めている。	人格の尊重や、プライバシーの保護等が記載された職員心得が、職員入職時の研修会で説明され、周知されている。事業所の理念にも明記し、個別ケアに向けて事例を挙げながら、ミーティングで話し合って利用者一人ひとりを尊重しながら、声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけを行うよう心がけ、可能な範囲で希望や要望に応じられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に押し付ける事を避け、一人ひとりのペースや体調、希望に応じた支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や好みの洋服を持っておられる方や、おしゃれに興味のある方は、家族に持参を協力して頂き支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる能力に合わせて、盛り付けや片付け等を分担し行っている。その時々で、職員と一緒にやる事もある。	基本の主菜と副菜は、調理されたものが届くが、毎食デザートは手作りで提供している。行事食は昼食用に主菜や副菜も手作りで提供している。おやつも手作りで楽しみとなるよう支援している。盛り付けや配膳、片付け、食器洗い等、利用者のできることは一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した食事は、献立に沿って提供している。小盛、ミキサー食、トロミ食等、個々に応じた食事形態で提供し、安全に摂取できるように支援している。又、行事では利用者の食べたいものを作る等の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや見守りを行い、本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや量をパソコン入力し、把握に努めている。排泄間隔が2~3時間空いている場合は、声かけし誘導介助を行っている。	排泄状況を把握するため、一人ひとりの排泄パターンを記録して、その人に合わせたトイレでの排泄を行っている。便秘対策として、毎日牛乳・ヤクルト・ヨーグルトなどの乳製品の摂取を、積極的に行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して、便秘をチェックしている。水分や牛乳を補ったり、運動を実施したりしている。また、内服薬で便の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人週2回を基本としている。受診や外泊等の予定がある日と入浴日が重ならないように配慮している。	週2回の入浴を基本とし、一人ひとりがゆっくりと湯船につかれるよう、支援している。多くの種類の入浴剤をそろえ、香りを楽しみながら入浴できる工夫をしている。入浴拒否の方には、声掛けを工夫したり、家族にも協力して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、一人ひとりの生活習慣に応じて対応している。活動の時間、休息の時間を確保し、生活リズムを整え、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、いつでも確認できるように設置している。薬の変更があった場合は、社内メールにて周知している。個々の利用者の状態を観察し変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や散歩、ドライブ、地域行事、室内でカラオケを楽しむ等、好みの活動に参加できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したいと希望があれば他者も誘い、職員と一緒に周囲の風景を楽しみながら散歩し気分転換を図っている。又、季節に応じた場所や古城公園高岡の名勝や、馴染みのある場所へのドライブ等を行っている。	隣接するスーパーには、日常的に散歩を兼ねて買い物に行っている。季節に応じて、花見や利用者の馴染みの伏木の海など、外出計画を立て、普段行けないような様々な場所へも出かけて、楽しい外出の機会としている。	事業所では外出計画を立て、利用者の気分転換や季節を味わう機会としているが、その取り組み状況を家族にお便りで報告するなど、理解と協力を得る取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持していないが、管理ができる方で本人の希望がある方には所持して頂いている。欲しい物や必要な物は、家族に持参して頂いたり、立替金で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望があれば、電話の取次ぎを行っている。又、携帯電話を所持している方も居り、自由に連絡を取り合っている。手紙、ハガキ等希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整やテレビの音量、カーテンでの遮光等に配慮している。施設内は活花を飾ったり、季節に応じた壁装飾等を工夫し、心地よく生活できるよう工夫している。	一人でいたい時は居室で過ごしていただいている。居室から一歩出ると温度調整がされたフロアには、各利用者の作品も飾られ、思い思いに過ごせる居場所も確保されている。浴室・トイレなどの壁も一色ではなく工夫がなされ、穏やかな空間づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファを設置し、利用者同士が和めるよう工夫している。居室は個室の為、一人になりたい時はいつでも自由にそこで過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの品や写真を飾ったり、他にも希望で冷蔵庫やテレビの持ち込み等あり。居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、ベッドのほかに洗面台も備え付けられ、いつでもうがいや手洗いができ、清潔な生活環境となっている。馴染みの写真や作品を飾ったり、テレビや冷蔵庫なども持ち込まれ、その人らしく暮らしやすいよう配慮されている。個々の状態の変化に伴い、模様替えなども柔軟に実施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること、分かること」や残存機能を把握し、本人が出来るだけ自立した生活を送れるよう環境作りを行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 あっとほ～む米島

作成日: 平成 30年 3月 10日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市町村や地域包括へ、相談や情報発信を積極的に行っていない。	運営推進会議で、地域包括に積極的に情報発信や協力要請を試みる。	2か月毎の推進会議で、地域包括に他施設情報やイベント等を伺ったり、自施設情報を提供する等行う。	2ヶ月
2	13	消防訓練の避難場所を具体的に定めていない。食堂から屋外に出た場所への避難場所としていた。	消防訓練の避難場所を具体的に定め、訓練に参加する。	消防訓練の避難場所を具体的に定め、その場所までの移動を含めた訓練を行う。	1ヶ月
3	18	家族に事業所の取り組みを伝える際は、便りや面会時等を活用しているが、便りに記載してある内容を家族が注視していない状況がある。	家族にもっとホーム便りを見て頂けるように工夫する。	ホーム便りを個人別に作成し、より本人の情報を詳細に記したものにす。	4ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。